

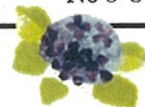
ふよう教室だより

鳥取大学附属特別支援学校

2012. 7. 13 (金)

No.63

梅雨のうっとうしさを少しでも気持ちよく...



じめじめとうっとうしい時期が続き、不快感でイライラしたり普段は調子よくできていることができなかったりとお子さんにとって、また、お家の方にとってもあまり良い季節ではありませんね。でも、そんな季節だからこそ、ちょっとしたアイデアで過ごしやすいことができます。水を使うようなお手伝い（風呂そうじをしてそのままシャワーを浴びる等）をして、汗をかけた後は親子で一緒にかき氷（手でくるくる回して...）を食べるなんて、楽しみながら手指の巧緻性が育つ、まさに一石二鳥ですよ。特別なことを考えるより身近な生活の中で、無理なくできることを考えてみましょう。遠慮なく、ご相談ください。

8月3日の予定（時間帯が変わります）

* **午前9時30分から11時** です。

* この日の「にこにこ相談会」は、お休みです。

◆ 欠席される場合は、早めにご連絡ください。あらかじめわかっている場合は、7月中にお知らせ下さい。



【にこにこ相談会】

個々の相談にあたります。ご希望の方は、随時、受付で申し込んで下さい。全体の研修会を10月に予定しています。

【コラム28】 前回のコラムで感覚の重要性についてお話しましたが、「**脳は感覚の栄養である**」という証拠に、いっさいの感覚を断ち切って暮らす実験で健康な人でも数時間で幻覚が生じ、その後元の状態に戻るのにかなり時間がかかったということです。そこで、今回は東日本震災の被災地を例に挙げて、子どもたちにとって遊び（感覚）の大切さについてお知らせしたいと思います。

【放射能汚染の不安も抱える福島へ『子どもたちが外出できない』『外で遊ぶことができない』などの現状に対して、親御さんの不安に対する支援として、子どもの遊びを応援する【福島お遊びキャラバン隊】という企画が実施（日本感覚統合学会）されました。この地域では、放射能の影響を恐れ、遠足も運動会も中止になったとのこと。週末や長期休暇には、子どもたちを県外に連れ出して息抜きしていること...。震災直後の不便は解消されても、じわじわと見えないストレスが皆の首を絞めているようでした。そこで、キャラバン隊は机を利用した大きな滑り台やダンボールトンネルなどの遊び場、お米のプール等を作りました。**お米のプールと大きな滑り台が一番人気**だったようです。遊び足りない様子の子も達もいましたが、大盛況のうちに2時間ほどでお遊び会は終了したそうです。この会に関わった方のアンケートをのせています。

★一つの遊具でも遊び方のバリエーションがいくつもあり勉強になった。子どもによって遊びたいものが違い面白かった。子ども一人ひとりニーズが違うことがよくわかった。★子どもの話の中で震災以後、外で遊ぶことが本当に減っているらしく、のびのびと遊ぶ子どもの顔がとても輝いていてまぶしく感じられた。★遊びを通して子ども達の笑顔を見ることができ嬉しかった。今、外で遊べない状況なので、たくさんの遊具で遊べ、子どもたちも嬉しかったらと思う。

「バシフィックニュース」2012年4月号より 一部抜粋

